

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	生涯学習推進事業			決算書頁	340
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇	

## 2. 事業の目的

<b>学習ニーズに応じた学習情報提供システムを構築する</b>
---------------------------------

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
総事業費	11,940	20,417	△ 8,477	一般財源	11,940	20,417	△ 8,477
内 事業費	3,395	3,205	190	国県支出金			
職員人件費	8,545	17,212	△ 8,667	地方債			
減価償却費				特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	1	2	△ 1	特定財源 (その他)			
再任用職員数 (人)							

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生涯学習推進事業	細事業事業費 (千円)	3,395
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)	審議会・検討会	団体等への補助	
(2) 30年度の取組と成果	<p>主 な 取 組</p> <p>① 社会教育委員の会の開催 (社会教育委員への報酬) …714千円            ② 社会教育委員の会運営事務 (臨時備人料) …1,795千円            ③ 社会教育関係団体への支援 (団体への補助金) …180千円</p> <p>(社会教育委員の会)</p> <p>「社会教育法」に基づき、社会教育に関する助言や諸計画の立案、また教育委員会の諮問に応じ意見を述べ、必要な研究調査などを行う社会教育委員を選任。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員構成：学識経験者、学校教育・社会教育・家庭教育の関係者 (10名)</li> <li>・年6回社会教育委員の会を開催</li> <li>・年間研究テーマ「公民館の役割について～今、何が求められているのか～」</li> <li>・人口減少時代の新しい地域づくりにおける公民館の役割について中間提言を得た。</li> <li>・阪神北地区社会教育委員協議会副会長市を務めた。</li> <li>・阪神北地区社会教育委員協議会委員として兵庫県社会教育研究大会第一分科会を運営</li> </ul> <p>(身体障害者社会学級の開催)</p> <p>阪神地区に在住の16歳以上の聴覚・言語障がい者(くすの木学級)、視覚障がい者(青い鳥学級)を対象に社会人としての幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、交流の場として相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供することを目的に県の委託事業として阪神地区管内の7市1町で開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神くすの木学級：尼崎教室を1回実施。(社会見学：尼崎の森中央緑地)</li> </ul> <p>対象市町村：伊丹市、宝塚市、三田市、川西市、猪名川町、西宮市、尼崎市、芦屋市 (7市1町)</p>		

- ・阪神青い鳥学級北支部：三田教室を3回実施。（歴史講話、対面朗読、社会見学：有馬富士記念公園）  
対象市町村：伊丹市、宝塚市、三田市、川西市、猪名川町（4市1町）

(社会教育関係団体補助金)

- ・奉仕活動、ユネスコ憲章に基づく事業などを推進するための活動の支援を行うため、下記の社会教育関係団体に補助金を交付した。これに伴い、安定した事業が実施された。

補助金交付状況

(単位：千円)

団体名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
川西市婦人会	90	90	90	90	90
川西ユネスコ協会	90	90	90	90	90

## 5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p><b>左記の具体的説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員の会では、公民館長との意見交換を交えながら人口減少時代の新しい地域づくりにおける公民館の役割について審議が行われた。</li> <li>・身体障害者社会学級については、くすの木学級、青い鳥学級ともに参加者数は昨年度に比べ減少した。</li> <li>・社会教育関係団体については、事業に対して支援、協力を行ったことで、安定した活動につながった。</li> </ul>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p><b>課題と改善について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の役割に関する審議については、中間提言をふまえ、子どもの居場所づくりや高齢者のいきがいづくりについてさらに検討する必要がある。</li> <li>・身体障害者社会学級については、参加者の高齢化、固定化が進んでいる。若い世代の参加を促進する工夫が必要である。</li> </ul> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p><b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員の会の中間提言については、教育委員会内で情報共有し、子どもの居場所づくり事業等に生かしたい。また令和元年度より生涯学習短期大学レフネックの運営についても同会で審議いただき、講座内容等の充実を図っていく。</li> <li>・身体障害者社会学級については、若い世代にも積極的に情報を発信し、学習環境の充実を図り、学習支援に努めたい。</li> <li>・社会教育関係団体の活動を引き続き支援し、団体の自立と活動の地域還元を促していく。</li> </ul>						

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	生涯学習短期大学運営事業			決算書頁	340
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇	

## 2. 事業の目的

生涯学習推進の核として生涯学習短期大学の学習環境を整備し、生涯学習の定着・進展を図る

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
総事業費	22,628	25,371	△ 2,743	一般財源	17,345	20,038	△ 2,693
内 事業費	14,083	16,765	△ 2,682	国県支出金			
内 職員人件費	8,545	8,606	△ 61	地方債			
内 減価償却費				特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	1	1		特定財源 (その他)	5,283	5,333	△ 50
再任用職員数 (人)							

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生涯学習短期大学運営事業	細事業事業費 (千円)	14,083
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)	講座・フォーラム	審議会・検討会	市民等からの意見
(2) 30年度の取組と成果	<p>主 な 取 組</p> <p>① 生涯学習短期大学運営 (嘱託員報酬・臨時傭人料) …7,541千円                  ② 専攻学科講座の実施 (講師への謝礼) …3,900千円                  ③ オープン講座の実施 (講師への謝礼) …600千円</p> <p>市内在住・在勤者を対象に、自己の充実や生きがいの創出をめざすため、自らの意志により学習するライフスタイルの発見、生き方の確立、更には習得した知識などを社会貢献として地域の活性化に役立てていただくことを目指して平成6年に2年制の短期大学を想定した生涯学習短期大学レフネックを開校。学識経験者や団体代表などから構成される川西市生涯学習短期大学運営に係る懇談会でいただいたご意見をもとに、毎年、複数の専攻学科を選定し、大学程度の専門的かつ高度な学習内容で2年間にわたり40回講義を継続して、系統的な学習を行っている。その他、学生及び一般の市民も受講できるオープン講座や学生を対象とした課外講座を実施して、多くの市民の方に学習の機会を提供することができた。</p> <p>【専攻学科】                  24期・2年次・・・文化遺産学科 72名、水産学科 60名                  25期・1年次・・・「地域」文化論学科 100名、景観園芸学科 91名</p> <p>【オープン講座】                  ①「大阪の笑いと文化」 4回 (延べ受講者数481名)                  ②「地球を優しく包む包装食品～食の安全の追求～」 4回 (延べ受講者数289名)                  ③「医療の最前線、3Dプリンティング技術」 4回 (延べ受講者数457名)</p> <p>【課外講座】                  ①パソコン教室 4回・2コース (延べ受講者数127名)                  ②川柳教室 4回・1コース (延べ受講者数76名)                  ③かわにし郷土教室 4回・1コース (延べ受講者数80名)</p>		

【生涯学習短期大学レフネック入学希望充足率】

レフネックは、毎年募集する学科内容が異なるため、単純比較は難しいものの、過去3年間の入学希望充足率は90%を超えている。また、入学実績がなく、落選経験のある応募者に一専攻学科50名の優先枠を設け、入学の機会均等に努めた。

	H26	H27	H28	H29	H30
入学許可数（人）	140	200	200	200	200
応募者数（人）	187	247	219	147	221
希望充足率（%）	75	81	92	100	91

（小数点以下切り上げ）



「1年次『地域』文化論学科」講義風景



「課外講座 かわにし郷土教室」講座風景

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明					
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>講座受講者のアンケート調査では、講座満足度は対前年度3.9ポイント増の87.6%だった。平成30年度も各学科において、市民が求める高度でかつ専門的・系統的な学習内容を提供することができた。その一方で、新しく募集した景観園芸学科については定員100名に対し9名の欠員が生じた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p><b>課題と改善について</b></p> <p>「地域」文化論学科の応募者は男性75人、女性25人で女性の応募者が少なかった。専攻学科については各学年ごとに文系、理系一学科ずつ開設しているが、男女共に興味を持っていただける講座の選定に努める必要がある。</p>	<p><b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b></p> <p>令和元年度より、社会教育委員の会でレフネックの運営について審議いただき、講座内容等の充実を図っていく。新規講座については、在校生へのアンケートや過去の学科データなどの情報を分析し、男女共に興味を持っていただけるような内容のものを選定していく。</p>						

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	高齢者大学開設事業			決算書頁	342
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇	

## 2. 事業の目的

高齢者に生涯学習の機会を提供し、自己研鑽や仲間づくり、社会参加を促進する。

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
	総事業費	10,665	10,386		279	一般財源	9,970
内 事業費	2,120	1,780	340	国県支出金			
内 職員人件費	8,545	8,606	△ 61	地方債			
内 減価償却費				特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	1	1		特定財源 (その他)	695	698	△ 3
再任用職員数 (人)							

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	高齢者大学開設事業	細事業事業費 (千円)	2,120			
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)	団体等への委託					
(2) 30年度の取組と成果	<p>主 ① 60歳以上の市民を対象に一般教養講座及び専門学科の講座を実施 取 (川西市高齢者大学りんどう学園運営委員会への委託料) …2,120千円 組</p> <p>① 高齢者大学は、高齢者の生涯学習への参加を促進するため、60歳以上の市民を対象に講座を開催している。学習年限を2年としており、一般教養講座 (必須) は社会問題、国際情勢、歴史、文学、生活学習等について11回開催し、専門学科は文芸・水墨画・自然・歴史・わがまち・ことばの6学科を各16回開催した。</p> <p>9月開催の一般教養では館外学習として、但馬地域にある「日本・モンゴル民族博物館」と「玄武洞ミュージアム」を見学した (参加受講生81名)。</p> <p>11月には専門学科の学習の成果を取りまとめて発表する「作品展」をアステ市民ギャラリー及び市役所1階市民ギャラリーで開催した。</p> <p>さらに、今年度初めての試みとして、1月に水墨画学科の「卒業・進級記念展」を川西能勢口駅1階の川西市立ギャラリーかわにしで開催した。</p>					
高齢者大学受講者の推移						
		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
受講者 (人)	専門学科	222	220	245	247	239
	老人クラブ	45	47	42	28	45
	合計	267	267	287	275	284
出席率 (%)	一般教養	69	72	71	71	71
	専門学科	77	82	81	83	81
	全体	74	78	77	77	76

川西市高齢者大学りんどう学園運営委員会は学識経験者（1名）、老人クラブ連合会代表者（1名）、各専門学科代表者（6名）、福祉部職員（1名）及び社会教育課職員（1名）の合計10名で構成されている。  
今年度は11回開催し、館外学習や作品展などの企画・実施方法等について協議を行った。

### 高齢者大学の講義風景

一般教養講座（アステホール）



専門学科（アステホール）



館外学習（日本・モンゴル民族博物館）



作品展（アステ市民ギャラリー）



## 5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		<p>・高齢者大学開設事業は、平成29年度までは中央公民館における各種講座のうちの一つであったが、30年度からは社会教育課へ事務移管され、講座開催場所もアステ市民プラザへ移転した。講座開催場所への車での来館は有料となったが、公共交通機関を利用した場合の利便性は向上し、受講者数・出席率ともに前年度と同程度の数値となった。</p>
市民の利便性や事業の効率性が向上した。		
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	
<p><b>課題と改善について</b></p> <p>・講座開催場所が移転し、11月の作品展についても、中央公民館からアステ市民プラザ内アステ市民ギャラリーに場所を移し開催した。しかし、アステ川西6階への訪問者は限定されるため、より多くの方にご覧いただける場所での学習成果の発信について検討する必要がある。</p>		<p><b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b></p> <p>・作品展の開催場所については、講座開催場所に固定するのではなく、より多くの不特定多数の方にご覧いただける場所での開催を検討し、りんどう学園のさらなる魅力発信を図る。</p>
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>		

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	公民館運営事業			決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部 川西公民館	作成者	館長 藤井 恵子		

## 2. 事業の目的

生涯学習の拠点としての学習機会の充実を図り、学習成果を生かせる仕組みを作る

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
総事業費	255,154	275,069	△ 19,915	一般財源	236,014	248,066	△ 12,052
内 事業費	172,223	188,127	△ 15,904	国県支出金			
内 職員人件費	82,931	86,942	△ 4,011	地方債			
減価償却費				特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	6	7	△ 1	特定財源 (その他)	19,140	27,003	△ 7,863
再任用職員数 (人)	7	6	1				

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	公民館運営事業	細事業事業費 (千円)	172,223			
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)	講座・フォーラム	団体等との共催・連携				
(2) 30年度の取組と成果	<p>主 ① 公民館運営のための人員配置 (嘱託員報酬、臨時職員賃金) …78,075千円</p> <p>取 ② 公民館講座の実施 (講師謝礼) …6,001千円</p> <p>組 ③ 公民館の管理運営の経費 (光熱水費、設備保守管理委託料など) …71,284千円</p>					
<p>生涯学習の拠点として、子どもからおとな、高齢者まで、市民の多様化するニーズに対応した講座や趣味・実技の講座を開催するとともに、人権や福祉などの講座を開催した。</p> <p>また、グループ活動の支援を行い、市民の学習機会の提供をし、情報提供を行った。</p>						
1. 公民館利用件数及び延べ利用人数						
年度	28年度		29年度		30年度	
館名	件数	人数	件数	人数	件数	人数
中央・川西*	3,184	69,719	3,065	78,051	2,302	41,725
川西南	1,025	16,701	1,016	16,877	1,036	16,751
明峰	1,287	21,938	1,227	21,147	1,236	19,789
多田	1,222	18,053	1,141	17,746	1,060	15,294
緑台**	1,748	33,205	1,611	30,992	763	12,188
けやき坂	1,481	19,908	1,341	19,944	1,222	18,503
清和台	1,410	20,407	1,356	19,683	1,263	16,734
東谷	1,780	28,414	1,781	27,838	1,821	24,895
北陵	1,239	22,606	1,257	21,325	1,200	20,591
黒川	225	4,695	173	3,356	229	3,589
合計	14,601	255,646	13,968	256,959	12,132	190,059
<p>* 30年度は中央公民館(平成30年4月1日～8月31日)及び川西公民館(平成30年9月25日～平成31年3月31日)の合計。</p> <p>** 緑台公民館は、平成30年9月1日～平成31年2月28日まで耐震補強・改修工事のため、貸館を休止。</p>						

2. 対象別講座一覧 ※数字は、講座数(開催回数)

年度	高齢者		成人		青少年(幼児・親子)		その他		合計	
	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数
28年度	5	118	115	230	42	334	21	23	183	705
29年度	3	112	110	205	47	333	20	22	180	672
30年度	1	5	99	186	47	310	21	23	168	524

\* 緑台公民館は、平成30年9月1日～平成31年2月28日まで耐震補強・改修工事のため、講座を未実施。

3. 公民館図書室利用状況

		28年度	29年度	30年度
蔵書数 (冊)	一般図書	51,835	48,420	46,585
	児童書	54,482	53,005	53,007
	合計	106,317	101,425	99,592
貸出数 (冊)	一般図書	67,227	66,369	60,926
	児童書	64,148	65,968	60,550
	合計	131,375	132,337	121,476

\* 緑台公民館は、平成30年9月1日～平成31年2月28日まで耐震補強・改修工事のため、図書の貸し出しを未実施。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p><b>左記の具体的説明</b></p> <p>幅広い世代を対象とした一般教養や現代的課題の講座をはじめ、地域の特性などを学ぶことができる「川西まちづくり講座」、市民ニーズに合わせた様々な講座を企画・実施した。講座受講生アンケートの満足度は前年と比べ0.9ポイント増の86.9%となり、目標値の87.0%に近づいた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p><b>課題と改善について</b></p> <p>公民館講座の実施を通じて、社会の変化や市民の学習ニーズに対応した学習と自己実現の機会の充実を図るとともに、さらに地域の学びの拠点となる必要がある。</p>	<p><b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b></p> <p>市民の学ぶ意欲を高め、社会の変化や学習ニーズに応じた講座の実施、公民館登録グループ活動の支援等を継続するとともに、学習の成果が地域で活用されるよう地域の諸団体等と連携し、市民の学習機会を提供していく。さらに子どもの居場所としての活用など、生涯学習や地域活動の拠点となるよう努めていく必要がある。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	公民館維持管理事業		決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます			
所管部・課	教育推進部 川西公民館	作成者	館長 藤井 恵子	

## 2. 事業の目的

公民館利用の促進を図るため、必要な施設及び設備を備える

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
総事業費	102,352	67,856	34,496	一般財源	82,766	64,956	17,810
内 事業費	52,357	17,784	34,573	国県支出金			
内 職員人件費	8,545	8,606	△ 61	地方債	19,586	2,900	16,686
内 減価償却費	41,450	41,466	△ 16	特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	1	1		特定財源 (その他)			
再任用職員数 (人)							

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	公民館維持管理事業	細事業事業費 (千円)	52,357
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)			
(2) 30年度の取組と成果			
主 な 取 組	<p>① 緑台公民館の耐震化等工事 (維持管理工事費、工事委託料) …16,956千円</p> <p>② 中央公民館から川西公民館への移転 (備品購入費、業務委託料) …13,952千円</p> <p>・利用者の安全、安心のため、緑台公民館の耐震化工事を実施し、合わせて幼児室・駐車場の改修を実施した。</p> <p>・老朽化が著しかった中央公民館を閉館、キセラ川西プラザ内に川西公民館を開館し、利用者の利便性が向上した。</p> <p>・安全で快適な学習環境を維持し、公民館利用者の促進を図るため、施設及び設備の修繕を実施した。</p>		
1. 主な修繕内訳	(円)		
公民館名	内 容	執行額	
多田公民館	空調機エアハンドリングユニット修繕	5,832,000	
緑台公民館	ブロック塀撤去修繕	2,688,120	
北陵公民館	自動ドア修繕	1,425,600	
北陵公民館	南出口ステンレス建具修繕	1,080,000	
黒川公民館	壁面等修繕	1,080,000	
けやき坂公民館	集会室壁修繕、敷地内段差修繕	614,520	
川西南公民館	男子トイレ小便器修繕	499,500	
2. 工事委託料内訳	(円)		
公民館名	内 容	執行額	
緑台公民館	耐震補強等工事管理委託業務	2,484,000	
3. 主な工事内訳	(円)		
公民館名	内 容	執行額	
緑台公民館	耐震補強等工事	14,472,000	

緑台公民館  
耐震化工事等



キセラ川西プラザ  
川西公民館

## 5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明					
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td></td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。		<p>市内10公民館の施設の保守整備に努め、突発的な修繕については迅速に修繕等を行った。</p> <p>緑台公民館の耐震補強等工事を実施し、安心して利用していただくことができるようになった。</p> <p>中央公民館を閉館し、キセラ川西プラザに川西公民館が開館し、利用者の利便性が向上した。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○						
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。							
<p><b>課題と改善について</b></p> <p>安全で快適な学習環境を確保し、利用促進を図るために、計画的に公民館の施設・設備の改修を行っていく必要がある。</p>	<p><b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b></p> <p>生涯学習の拠点として整備されている公民館は、老朽化している館もあるが、今後も適切に修繕を行う。</p> <p>令和元年度には、黒川公民館の外壁やグラウンドの修繕を実施していく。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	図書館運営事業		決算書頁	348
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます			
所管部・課	教育推進部	中央図書館	作成者	館長 村山 尚子

## 2. 事業の目的

図書館資料の収集・整理・保存をおこない、市民等の利用者に対し、生涯学習を支援する

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
総事業費	137,814	141,872	△ 4,058	一般財源	137,323	141,323	△ 4,000
内 事業費	92,760	96,683	△ 3,923	国県支出金		144	△ 144
内 職員人件費	34,180	34,424	△ 244	地方債			
内 減価償却費	10,874	10,765	109	特定財源 (都市計画税)			
参考				特定財源 (その他)	491	405	86
職員数 (人)	4	4					
再任用職員数 (人)							

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	図書館運営事業	細事業事業費 (千円)	92,760
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)	団体等との共催・連携	講座・フォーラム	審議会・検討会
(2) 30年度の取組と成果	<p>主 な 取 組</p> <p>① 窓口業務・資料提供・ボランティア支援等の業務 (嘱託員報酬・臨時傭人料) …58,445千円 ② 図書等の整備 (図書購入費) …14,325千円</p> <p>1. 学校・幼稚園・保育所等の登録団体に団体貸出を実施した。 2. 公民館図書室 (黒川除く)との相互連携のため、本の配送等を実施した。 3. 子どもの読書活動を推進するため、おはなし会などの行事を実施した。また小学校1～3年を対象とした読書ノートを作成し、全校に配布した。 4. 図書館運営にかかるボランティアを対象に、講座の実施や活動の場を提供するとともに、図書館サービスの充実を図った。 ①「音訳ボランティア講座」全5回 (既に活動中のボランティアを対象)を実施し、技術向上を図った ②視覚障がい者への対面朗読サービスの実施、デジター図書、点字図書の作成 ③おはなしボランティアの活動支援、連携により絵本の読み聞かせ等の実施 ④返却本の配架や書架整理など開館前の準備を行う図書館ボランティアの活動支援 5. 図書館見学・実習・体験の受入を行った。 ①小学3年生の社会見学: 10校、延べ737人                      ②「図書館員体験」(小学4～6年生対象): 2組4人 ③トライやる・ウィーク受入: 3校6人                              ④新任教諭初任者研修(2人) 6. 資料の無償譲渡や、担当教諭・学校司書対象の講習会(1回実施36人)を実施し、学校図書館への支援強化を図った。 7. 資源の有効活用と市民のリサイクル意識の醸成を図るため、「図書リサイクル展」を実施した。譲渡冊数: 4, 063冊 8. 来館が困難な障がい者へ資料の郵送サービスを実施した。 9. 川西市、猪名川町、豊能町の各公共図書館と能勢電鉄による合同イベントとして、1市2町図書館合同読書キャンペーンを実施した。</p>		

1 (1) 蔵書冊数・開館日数・来館者数・貸出者数・貸出冊数

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
蔵書冊数(冊)	329,694	333,998	332,327	327,942	327,831
開館日数(日)	286	288	287	289	283
来館者数(人)	418,337	372,616	402,729	386,989	374,608
貸出者数(人)	285,268	289,915	276,105	270,103	261,883
貸出冊数(冊)	795,684	798,631	754,344	719,102	677,186
有効登録者数(人)	20,558	20,685	19,704	19,167	18,281

来館者:27年度については算出方法が異なる

(2) 予約件数の推移

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予約件数(件)	133,626	135,435	131,766	130,206	130,681
うちインターネット 予約件数(件)	103,523	105,460	105,312	105,714	106,418

予約:10冊まで

2. 団体貸出実績

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
登録団体数	81	111	104	102	137
貸出冊数(冊)	22,858	30,059	24,715	25,307	24,254

団体貸出:200冊8週間

登録団体:市内の学校、幼稚園、保育所、民間文庫等で図書館に登録している団体

3. 公民館との相互連携(配送)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
配送回数(回)	97	96	96	97	99
配送冊数(冊)	40,970	39,135	40,854	42,540	40,165

配送:週2回

4. ボランティアの活動状況

	人数(人)	資料作成数*
音訳ボランティア	30	141
点訳ボランティア	8	9

\*資料作成数:(タイトル数)

	人数(人)	活動回数(回)
おはなしボランティア	22	71

	人数(人)	活動延べ人数(人)
書架整理ボランティア	35	1,679

5. 登録グループの活動状況

	人数(人)	活動回数(回)
子育て支援グループ いのちのいばあ	18	9
おはなしポムポム	9	14
川西おはなしの会ひばり	15	17
文学グループハトスの会	43	7
北摂児童文学会	11	6
朗読同好会「草笛」	10	20
早春本句会	36	6
川西の古文書と歴史に親しむ会	14	4

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		①従来の事業の他、近隣図書館と連携し合同イベントを開催するなど新規事業を実施したが、個人貸出は減少した。大阪府北部地震による臨時休館なども一因だと考える。②図書館ボランティアの安定した活動により、図書館サービスを効率的に行うことができた。③子どもの読書活動推進事業等により、学校等との連携・支援を図った。④書架を増設し利用しやすい書架づくりに努めたが、今後も計画的な整理が必要。
市民の利便性や事業の効率性が向上した。		
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	
<b>課題と改善について</b> ①個人貸出は減少しているが、インターネットでの予約件数は増加傾向にある。システム更新を機にインターネット等を利用したサービスの充実を図る。 ②魅力ある施設を目指し、資料の収集・整理・保存の計画的な取り組みとレイアウトの工夫、利用PRが必要。	<b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b> ①市内施設や各団体への読書サービス網の中心的役割を果たす。②学校等との連携・支援を推進し、間接的に図書館から遠方の児童へのサービス向上に努める。③ボランティアの活動支援等、市民の参画と協働を図りながら、知識や出会いを得られる場としての存在価値を高める。	
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。		

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	図書館施設維持管理事業			決算書頁	350
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	中央図書館	作成者	館長 村山 尚子	

## 2. 事業の目的

利用者が良好な状態で図書館を利用できるよう維持管理を行う

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		30年度	29年度	比較	財源		30年度	29年度	比較	
内	総事業費	43,472	44,010	△ 538	一般財源		43,472	44,010	△ 538	
	事業費	43,472	44,010	△ 538		国県支出金				
	職員人件費					地方債				
	減価償却費					特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)				特定財源(その他)					
	再任用職員数(人)									

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	図書館施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	43,472												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)															
(2) 30年度の取組と成果															
主な取組	① 図書館の施設管理(設備の保守点検や定期清掃等) …43,472千円														
<p>事業費の推移 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費全体</td> <td>45,375</td> <td>45,789</td> <td>47,316</td> <td>44,010</td> <td>43,472</td> </tr> </tbody> </table>					26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	事業費全体	45,375	45,789	47,316	44,010	43,472
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度										
事業費全体	45,375	45,789	47,316	44,010	43,472										
<p>図書館正面入り口</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>4階フロア</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>5階調査相談室</p> </div> </div>															

○平成30年度に実施した設備の修繕等

・調光用照明器具修繕(5階視聴覚室)	297千円
・カーテンレール取替修繕(5階視聴覚室)	163千円
・照明器具修繕(5階廊下)	492千円
・空調自動制御機器修繕	486千円

調光用照明器具修繕(5階視聴覚室)



照明器具修繕(5階廊下)



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全、快適性を図るため、施設維持・設備管理に努めた。</li> <li>①5階視聴覚室と廊下の照明をLEDに改修し、利用者の利便性の向上とエネルギーの省力化を図った。</li> <li>②空調関連機器を長期修繕計画に基づき修繕を行い、館内の快適性と機器の安定性を確保した。</li> </ul>
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。		
<b>課題と改善について</b> 平成3年に開館されて以来、施設、設備の経年劣化が進んできているため、計画的な修繕、改修が必要不可欠である。		<b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に良好な読書環境を維持するため、修繕、改修を計画的に進めていく必要がある。</li> <li>・アステ川西の一業務床として、アステ川西管理組合の修繕の動向等も参考にしつつ、更新、改修等を実施する。</li> </ul>

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	中央図書館災害復旧事業			決算書頁	352
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部 中央図書館	作成者	館長 村山 尚子		

## 2. 事業の目的

<b>自然災害により被災した施設を迅速・確実に復旧する</b>
---------------------------------

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		30年度	29年度	比較	財源		30年度	29年度	比較
内訳	総事業費	13,176		13,176	一般財源	76		76	
	事業費	13,176		13,176	国県支出金				
	職員人件費				地方債	13,100		13,100	
	減価償却費				特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)				特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)								

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中央図書館災害復旧事業	細事業事業費(千円)	13,176
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 30年度の取組と成果			
主な取組	① 大阪北部地震により損傷した、4階吹き抜け部天井等の改修(工事請負費)…13,176千円		
1.被害の状況について	4階吹き抜け部天井仕上げ材の一部落下 4階吹き抜け部照明器具の一部破損等		
2.改修工事の概要について	4階吹き抜け部天井改修及び電気設備、壁クロス等の改修		
3.改修中の状況について	4階吹き抜け部分(児童コーナー)が使用できない間は、5階視聴覚室に「ミニみに児童コーナー」を開設した。 全館閉館中は、4階EVホールで返却と予約本の受け渡し、予約受付等を行った。 行事等の実施については、社会見学の受け入れや夏休み行事等の一部を中止、延期せざるを得なかった。		

改修工事



ミニみに児童コーナー



## 5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		<p>関係部署と連携し早急に復旧工事を行うとともに、順調に工事が施工されたことにより予定より早く開館することができた。</p> <p>また改修工事中は、全館閉館した期間や立ち入りできないエリア(児童コーナー)があるなど、利用できる機会や範囲は限定せざるを得なかったが、4階入り口前で図書の受け渡し等を行うなど、可能な限り市民の利便性の確保に努めた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が向上した。		
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	
<b>課題と改善について</b> 災害発生時には、利用者の安全確保や施設の点検、状況や情報の収集など迅速かつ的確に初期対応を行う必要がある。防災訓練への参加や研修を通し、職員の危機管理意識を高めていく。		<b>令和元年度以降における具体的な方向性について</b> 災害発生時には被災した施設を迅速・確実に復旧する。

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

# 事業別行政サービス成果表

## 1. 事業名等

事業名	文化財事業		決算書頁	342
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	40 ふるさと川西の文化遺産を保存・継承・活用します			
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇

## 2. 事業の目的

市内の文化財を貴重な歴史文化遺産として保護、顕彰、活用する

## 3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	30年度	29年度	比較	財源	30年度	29年度	比較
総事業費	738,795	627,574	111,221	一般財源	80,903	69,076	11,827
内 事業費	701,038	596,154	104,884	国県支出金	5,914	19,387	△ 13,473
内 職員人件費	25,635	21,662	3,973	地方債	651,100	537,900	113,200
内 減価償却費	12,122	9,758	2,364	特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	3	2	1	特定財源(その他)	878	1,211	△ 333
再任用職員数(人)		1	△ 1				

## 4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	文化財保存啓発事業	細事業事業費(千円)	660,677		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	審議会・検討会	講座・フォーラム	団体等との共催・連携		
(2) 30年度の取組と成果	<p>主 ① 埋蔵文化財(遺跡)の発掘調査の実施(発掘調査業務委託料)…1,408千円</p> <p>取 ② 栄根寺廃寺遺跡を史跡公園として活用(公園用地の土地借上料)…3,806千円</p> <p>組 ③ 八阪神社・勝福寺古墳散策路整備事業に伴う用地買戻し(土地購入費)…647,210千円</p> <p>・川西市登録文化遺産の第1号として、平野鉦泉工場跡旧御料品製造所(アサヒ飲料株式会社 三ツ矢記念館)及び旧源泉地施設を登録した。</p> <p>・川西市指定文化財(天然記念物)を啓発するために解説看板を3か所設置した。</p> <p>・旧平賀家住宅東屋、多田神社宝物殿、東多田夢勝庵主屋ほか5棟を国登録有形文化財に意見具申し登録された。</p> <p>・八阪神社・勝福寺古墳散策路整備事業に伴って、用地の一部を用地先行取得事業特別会計より買い戻した。</p> <p>・大阪府北部地震、平成30年7月豪雨、台風20号、台風21号の被害を受けた国指定重要文化財多田神社及び国指定史跡多田院に対して、国、県とともに災害復旧事業への補助を行った。</p> <p>・国指定史跡加茂遺跡の保存と管理を進めた。</p> <p>・埋蔵文化財(遺跡)については、各種開発に対処して発掘調査を実施した。</p> <p>・文化財の普及啓発を市民と協働して推進するために、文化財ボランティア養成講座を開催した。</p> <p>・川西市文化財ボランティアガイドの会、加茂小学校区コミュニティ推進協議会加茂遺跡クラブとの共催で加茂遺跡スタンプラリーを企画、開催した。</p>				
1. 発掘調査実施件数	(単位:件)				
遺跡名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
加茂遺跡	5	3	4	1	6
その他	13	13	12	5	15
合計件数	18	16	16	6	21
合計面積(㎡)	172	145	130	49	156
2. 文化財保存啓発事業参加者数	(単位:人)				
事業名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
文化財講座	107	78	154	69	-
文化財ハイキング	17	7	12	32	24
加茂遺跡スタンプラリー	147	202	130	157	173
発掘調査現地説明会	-	-	-	-	-
文化財ボランティア養成講座	58	35	46	52	102
合計	329	322	342	310	299



天然記念物解説看板

<細事業2>	文化財施設管理事業	細事業事業費(千円)	40,361								
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム	団体等との共催・連携									
(2) 30年度の取組と成果											
主な取組	① 文化財施設3館(文化財資料館・郷土館・歴史民俗資料館)の管理(嘱託員報酬・臨時備人員)…18,521千円、(光熱水費)…3,781千円、(修繕料)…10,056千円、(設備保守管理委託料・業務委託料)…4,248千円 ② 郷土館主催講座の開催(講座講師への謝礼)…203千円										
<p>・文化財資料館では、市内の遺跡で実施した発掘調査で発見された遺物の整理、収蔵、展示を行い、遺跡に関わる啓発事業を実施した。学校教育との連携として、幼稚園児・小学生の団体見学対応及び小学校への出前授業を実施し、トライやる・ウィークの中学生の受入れを行った。地元コミュニティとの連携を推進するために、加茂小学校区のコミュニティ文化祭に勾玉作り体験ブースを出店した。</p> <p>・文化財資料館の新規事業として、これまでの発掘調査成果に関連した考古学に関する連続講座を6回開催し、延べ229人の参加があり、入館者の増加につながった。</p> <p>・郷土館では、国登録有形文化財である大正時代の建造物(旧平安家住宅・旧平賀家住宅)、寄贈絵画関連施設(ミュージアムホール・アトリエ平通)等の管理、運営、公開を行うとともに、施設主催講座や企画展示を開催し、施設活用に努めた。地域との連携のもと、東谷ズム、郷土館まつりといったイベントを開催した。学校教育との連携として、幼稚園児・小学生の団体見学対応、トライやる・ウィークの中学生の受入れを行った。</p> <p>・歴史民俗資料館では、県指定重要有形民俗文化財である江戸時代の古民家2棟(旧下堂家住宅・旧福田家住宅)の管理、公開を行い、小学校の団体見学等に対応した。</p> <p>・歴史民俗資料館において、平成29年度からの繰越事業として、平成29年10月の台風21号により被害を受けた旧下堂家住宅、旧福田家住宅の茅葺屋根修繕を実施した。</p>											
1. 文化財施設入館者数 (単位:人)		2. 文化財施設啓発事業参加者数 (単位:人)									
施設名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	施設名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
文化財資料館	3,773	3,357	3,313	3,106	3,843	文化財資料館	417	496	524	609	671
郷土館	8,885	9,981	10,348	9,229	7,338	郷土館	646	1,281	672	713	714
歴史民俗資料館	877	941	1,371	1,115	998	合計	1,063	1,777	1,196	1,322	1,385
合計	13,535	14,279	15,032	13,450	12,179						

## 5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

事業目的に対する自己評価		左記の具体的説明					
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td></td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。			市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○						
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。							
課題と改善について		令和元年度以降における具体的な方向性について					
<p>・川西市の歴史や文化財に興味を持つ市民が増えるように文化財のさらなるPRが必要である。</p> <p>・加茂遺跡を適切に保存、管理、活用する手法を検討する必要がある。</p> <p>・郷土館旧平安家住宅や歴史民俗資料館の歴史的建造物を計画的に修繕していく必要がある。</p>		<p>・新たに設けた川西市登録文化遺産の今後の登録候補物件を検討し、登録件数を増やす。</p> <p>・加茂遺跡について、国指定史跡への追加指定などを進めるとともに、遺跡の魅力を紹介する企画展示や講演会などを実施する。</p> <p>・郷土館旧平安家住宅や歴史民俗資料館といった歴史的建造物について計画的な修繕を行うために、建物調査の実施を進める。</p>					
<small>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</small>							

